

# 商 況

(日本製鐵販賣旬報第146~147號より抜萃)

## 目 次

昭和14年4月下旬—5月上旬鐵鋼關係日誌  
海外鐵鋼事情  
鐵鋼工作物築造制限の強化  
東京大阪鐵鋼市中概況

日本鑄鋼協會々員名簿  
東京大阪市中鐵鋼相場表  
昭和14年4月中發表各種鋼材建値表

### 昭和14年4月下旬—5月上旬鐵鋼關係日誌

#### 4 月 下 旬

21日 3月中内外卸賣物價指數次の如し(佛國のみ2月, △印低落, 昭和8年を100とす)

	3月指數	前月比較	割合
日 本	147.1	0.2	0.1%
滿 洲 國	171.1	6.2	3.8
英 國	110.2	1.5	1.3
米 國	116.2	△0.3	△0.3
佛 國	174.2	0	0

○イタリー, アルバニアとの國家聯合完成し, 經濟協定に調印を了した。

22日 中歐に於いて其向背に多大の疑問を持たれてゐた洪國が伊洪兩國外相會談により獨伊樞軸の線に沿ふ事になつたものと見られてゐる。

24日 日鐵では同社第2回社債25,000,000圓の發行條件を大要下の如く發表した。利率4分2厘。發行價額, 額面100圓に付99圓50錢。期限12ヶ年但し2ヶ年据置き, 其の後各利拂期日に50,000圓以上償還。申込期間5月4日より5月6日迄。拂込期限5月25日。募集銀行, 興銀, 第一, 三井, 三菱, 安田, 第百, 住友, 三和。

○鋼板共販理事會では今般日本鋼材販賣株式會社の設立に當り, 共販組合の存續期間について下の如く決定した。日本鋼材販賣株式會社は共販組合の議決に基く實行機關であつて, 共販組合は各組合員の意向を表示する議決機關であるから當分存續せしむる事とする  
尙日本鋼材聯合會に於て現在の機構を改革し, 部會等の形式で共販組合に代り得る組織の結成せられた場合は聯合會に屬せしむ。  
次期販賣値段は据置と決定した。

○棒鋼, 形鋼共販理事會開催, 次の諸項の決定を見た。  
日本鋼材販賣株式會社の設立後に於ける共販組合の存續については鋼板共販と同様に決定した。

去る12日開催の棒鋼共販第2部理事會に於て從來同部統制品中の半軟鋼を第1部に移管する事に決定したので, 其の取扱に關し次の様に決定した。本組合員の製造する鋼種中從來中間鋼として製造せる半軟鋼の製造は認めず, 今後は普通鋼規格品として取扱ふこととなり, 半軟鋼の既契約品は次記の方法により整理することとなつた。

1, 市販品に對しては

(イ) 組合員は既契約品中本年5月末日迄に積出するものは既契約値段(ベース245圓)に據る。

6月1日以降に積出するものは半硬鋼の新建値(ベース225圓)に據る。但し問屋より5月末日迄に解約希望申出あるものに對しては解約に應ず。

(ロ) 問屋は6月末日迄は舊建値(ベース245圓)7月1日より8月末日迄は半硬鋼の新建値(ベース225圓)9月1日より普通鋼販賣値段(ベース丸は175圓)を基準として販賣するものとす。

2, 軍需品に對しては既契約は其儘とす。

販賣値段は前回通り据置と決定した。

25日 米國U.S. スチール會社は本年度第一4半期(1月—3月)の業績を次の如く發表した。

1, 配當. 優先株は1株につき1弗75仙, (据置)普通株は無配。

2, 損益勘定. 純收入661,000弗で昨年同期の缺損1,292,000弗に比べればかなりの改善を示した。昨年第四4半期の純收入4,394,000弗に比すると3,733,000弗の減少となる。

3, 操業率平均. 全能力の51.7%で昨年第四4半期の44.6%に比し7.1%の回復である。

4, 鋼材積出高. 2,235,000tで生産全能力の50.2%に相當してゐる。昨年第四4半期に比べて198,000tの増加である。

5, 使用労働者數, 平均209,000人で昨年第四4半期に比し約7,000人の増加, 尙現在使用中の労働者數は211,000人。

6, 貨銀支拂高. \$3,065,000弗で昨年同期より14,750,000弗の増加である。

○昭和12年7月を100とする東京市の4月中労働者生計費指數は117.2で前月より2分, 前年同月より8分2厘の上昇である。尙事變前昭和12年7月より1割7分2厘の上昇となつた。

給料生活者生計費指數は115.7で前月より1分8厘, 前年同期より7分6厘の上昇であつた。

26日 今週の米國製鋼作業率は48.6%と前週より2.3%方の減少に見積られたが, 5月中の生産高は需要減少の影響を受けて, 更に減少を豫想されてゐる。一方石炭罷業の勃發により石炭の消費節約から生産制限も餘儀なくされ, 一部溶鑪は閉鎖されてゐると。

○15日に50仙方値下されたアメリカ屑鐵相場は又復軟化。本日ピッツバーク渡一般屑鐵相場は再び50仙方引下げられt當14弗50仙乃至15弗となつた。輸出向の屑鐵及レール屑は保合。

27日 3月中の全國生計費指數(大正3年7月基準)は前月の0.7高のあとを受け更に0.5方續騰し214.3を示した。

○獨逸鐵鋼協會發表, 3月中のドイツ鉄鐵生産高は1,730,000t(2月1,529,000t) 鋼生産高2,215,000t(2月1,955,000t)。

○米國商務省は3月中の米國鉄鐵輸出高を1,000t(前月5,000t) 屑鐵輸出高を310,030(前月223,000t)と發表す。

○ベスレヘム製鋼會社の本年第1期(1月~3月)の業績次の如し。

1, 純益. 2,409,000 弗で昨年第4期(10月~11月)の3,658,000 弗に比し1,249,000 弗の減少であるが, 前年同期の995,000 弗に比べて1,414,000 弗の激増であつた。

2, 配當, 普通株無配, 7分利付優先株は1株に付1弗75仙, 5分利付優先株は25仙で何れも据置。

3, 操業率. 平均操業率は5割9分で前年同期の3割4分6厘に比し2割4分4厘の増加。

28日 ヒトラー獨逸總統はドイツ國會に於て世界注視の下にドイツの對外政策を闡明する歴史的大演説を行た。その大要はドイツのダンテツヒ, ポーランド廻廊要求に對し, ポーランド政府が拒絶したので, ドイツは獨逸不可侵條約を破棄する旨を言明した。又英獨海軍協定破棄を聲明し, 植民地返還の對英要求を更めて強調した。殊に去る14日ルーズヴェルト大統領のメツセーヂに對してはドイツは獨立保障が双務的なものであるとの條件の下にドイツに接近せんとする國々に對しては安全保障を與へると述べ暗に米國の歐洲問題介入を排除した。

29日 昭和12年7月を100とする全國主要24市平均4月中労働者生計費指數は117.9で事變前の昭和12年7月に比べて1割7分9厘, 前月に比べて1分6厘, 前年同期に比べて9分2厘の上昇である。

尙全國主要市平均の4月中給料生活者生計費指數は116.8で前月よりも1分6厘, 前年同期より8分7厘の上昇であつた。

4月下旬對英米爲替相場

月	日	對 米	對 英
4.	21	27— $\frac{1}{4}$	$\frac{1}{2}$
	22	"	"
	24	"	"
	26	27— $\frac{5}{16}$	"
	27	27— $\frac{1}{4}$	"
	28	"	"
	29	"	"

5月上旬の日誌

○日本鋼材聯合會常務委員會では下記の諸會社の新規加入を承認した。

棒鋼共販へ小倉築港株式會社, 株式會社内外製鋼所, 大阪製鐵株式會社, 東京製鐵株式會社。

形鋼共販へ大阪製鐵株式會社, 株式會社内外製鋼所, 東京製鐵株式會社。

鋼塊組合へ東邦鋼業株式會社, 株式會社内外製鋼所。

聯合會へ大谷製鋼所(鋼板共販), 東邦鋼業株式會社(鋼板共販), 株式會社内外製鋼所(棒鋼, 形鋼共販)。

棒鋼, 形鋼, 厚鋼板, 線材以外の品種の共販組織整備に關して次の如く決定した。

(イ) 半製品鋼塊——現行制度を繼續す。

(ロ) 鋼管——現在の日本ガス管販賣株式會社を改組擴充して資本金500萬圓の共販會社となしガス管, ボイラーチューブ, コンデットチューブ其の他各社に共通する鋼管の一手販賣をなさしむ。

(ハ) 薄板, 鉄力, 帶鋼——別に共販會社を設立す。

亞鉛引鐵板については別に研究のこと。

○半製品共同販賣組合鋼塊部事務開始總會及第1回理事會開催され鋼塊部の經費については半製品部及第2部とは別勘定とし, 販賣値段に關しては次回に改めて協議される事となつた。

1日 米國の今週の製鋼作業率は47.8%と見積られ0.8%の減少となつた, U.S スチール株は45弗半(前日より8分3厘安)。

○中支軍發表 かねて所謂蔣介石の4月攻勢を準備せる抗日支那軍は2月以來兵力を軍西北正面に集中4月に入て信陽, 隨縣, 安陸方面全線に兵力を増加し攻撃を企圖せるも其の都度我軍に反撃せられ, 多大の打撃を受けて今や殆んど萎靡するに至れり。我軍はこの機に乗じ, 信陽, 浙河市附近に亘る線より一齊に攻撃に轉じ, 敵を西北に壓迫中なり。

3日 ソヴェト聯邦最高會議はリトヴィノフ外務人民委員の辭職を承認し後任にはモロトフ人民委員會議々長をして兼任せしめる旨發表した。

○澤田外務次官は駐日英, 米大使を招致し, 上海租界工務局自體の根本的改組に關する見解を申入れた。

○チェンバレン英首相は下院に於て英國の歐洲政策に關し「英國は侵略の危險にある國を保護するのが目的で獨逸を包圍攻撃する企圖はなく若し獨逸が希望するならば英國は相互的保障を獨逸に對して考慮してもよい」と聲明した。

4日 2月の全國各日貨銀指數(大正3年7月基準)は309.2で前月より1分2厘の昂騰を示し, 實質貨銀指數は生計費指數の騰貴を凌いで前月より6厘高の145.0となつた。

○大本營陸軍部發表, 敵の4月攻勢に對する我が戦果は北支方面(4月1日より28日迄) 敵遺棄死體12,465. 鹵獲品多數. 我が戦死180.

中支方面(4月1日より23日迄) 敵遺棄死體4,360. 鹵獲品多數. 我戦死65.

南支方面(4月1日より30日迄) 敵遺棄死體6,120. 鹵獲品山砲2, 連射砲8等. 我戦死136.

5日 日本製鐵では次のやうに職制を改正して本月より施行す。從來の本店の臨時建設局を建設部となし, 設備の建設に關する事項を掌らしめ, 又臨時建設局廣畑支部を廣畑製鐵所に, 臨時建設局清津支部を清津製鐵所に改正した。輪西製鐵所に庶務部, 製鉄部, 製鋼部, 化工部, 動力部, 工務部を置くこととなつた。

○商工省は省令第21號を以て昨年12月1日より施行して來た鐵屑配給統制規則中第2條, 第3條及第4條の規定を熔解用の鉄の屑, 又は故に關しても來る6月1日より適用する事となつた。又第6條(鐵屑配給割當證明書に關する

規定)第7條(制當證明書發行團體に關する規定)を熔解用の鋼又は銑の屑、故に關しても6月1日より適用する事となつた。

○商工省は省令第20號を以て鐵屑配給統制規則を改正し特殊鋼の屑又は故に關しても統制會社及統制會社の指定したる蒐集業者以外の者に譲渡出来ない事とした。尙詳細は屑鐵配給統制の強化を参照。

6日 英土協力を目的とする英土會談はアンカラに於て進行中であつたが本日に至り兩國の意見の一致を見、兩國間に地中海の安全保障に關し相互的援助協定を締結することとなつたと。

○リッペンドロップ獨外相はミラノにチアノ伊外相を訪ねポーランド問題に關し會談をなしたと。

7日 伊政府は公式コミュニケを以て獨伊兩國に政治軍事協定が締結されることとなつた旨次の如く發表した。「獨伊兩國は獨伊樞軸の連繫關係を最終的に決定する爲政治、軍事協定を締結することに決定した」。

8日 商工省では鐵鋼需給狀態の窮屈化に鑑み築造許可を要せざる鐵鋼工作物の範圍を更に縮少することとなり、昨年7月告示第187號を廢止し新に本日付告示第104號を以て許可不要の範圍を指定した(別項参照)

○中支軍發表、軍は第5戰區の敵主力を求めてこれを殲滅するため、信陽、浙河市間地區のみならず浙河市以西鐘祥(安陸)漢水に亘る全線も攻勢に轉じ空陸相呼應して隨所に敵を擊破し7日夕には概ね殲滅の戰略的體勢を形成せり。暑熱甚だしきも將兵の士氣極めて旺盛なり。

○日本鋼材聯合會の統轄下に次記各社間に於て鍛鋼協議會を結成することとなつた、日本製鐵株式會社、株式會社日本製鋼所、日本曹達株式會社、株式會社川崎造船所、株式會社神戸製鋼所、三菱重工業株式會社、株式會社日立製作所、住友金屬工業株式會社。

10日 商工省は告示第106號を以て鐵鋼配給統制規則第2條の規定に依り次の通り團體を指定した。

- 日本内燃機工業組合聯合會
- 日本鋳力製品工業組合聯合會
- 全國電線工業組合聯合會

5月上旬爲替相場

月	日	區 分	
		對 米	對 英
5.	1	27-1/4	7/8
	2	27-3/16	7/8
	3	〃	〃
	4	〃	〃
	5	27-1/4	〃
	6	〃	〃
	8	〃	〃
	9	〃	〃
	10	〃	〃

海外鐵鋼事情

ブラッセル市況(1月中)

月半ば頃までの情勢は、未だ年末の一時的な取引休止の餘波を殘して、市場は頗る閑散であつた。新規註文の流入は甚だしく、前月同期よりも下位にあつた。然し傳へる所によれば、極東からの種々

の品種に亘る二、三の大口引合(約75,000tに及ぶと云はれてゐる)があり、これについてカルテルは種々商議を續けてゐる由であつた。又南アメリカ市場からも合計8,000t~10,000tに及ぶ大口の引合が市場に出て居た。

さういふ譯で受註現在高は少かつたにも拘らず、將來に對してはメーカーはさして悲觀はして居らず、1月の後半には需要は漸次恢復して來るだらうと期待して居た。なほ春になれば需要の季節的な復活もある可く、旁々第一4半期全體としての取引については、メーカーは可成り信頼を有てゐた。

なほ11月及び12月には工場の生産は漸次増加せられた。その爲1月の受註減少によつて、各部門に亘て幾分荷売れの氣味があり、從て値引は益々その範圍を擴げ、從來から既に見られてゐた棒鋼のみに止らず、構造物鋼材についても値引が行はれるに到つた。

然るに月半ば頃からは漸次恢復するだらうと期待されてゐた買付も、豫期どほり捗々しくは行かず、閑散狀態は中旬までも持續した。これは必ずしもベルギーのみの現象ではないらしく、輸出貿易の不振は國際的な情勢であると傳へられた。けれども1月半ばになつても例年通り買付が復興しないのは、決して實質的に見て需要が無いからではなく、むしろ國際政局の不安の爲に買付が手控へられてゐるのに基づくものであらうといふのが一般の觀測であつた。然し引合は可成り大口のものが方々から流入し、其の他種々の事情から察して、2月の始めには取引はノーマルな軌道に戻らうと云はれた。

然し兎に角取引は極めて緩慢であつて、1月第3週までの受註高は昨年同期の約60%に過ぎなかつたので、價格もこれを反映して棒、形等に於ける値引の程度は益々強くなつた。

第4週に入つても此の狀態は變らず、取引は概して捗々しくなかつた。但しイギリスが半製品の輸入許可をした事、アルヂエンチンから若干の需要があつた事、オランダが鋼板に對して可成りの數量の註文を出した事等の爲に、前週よりは幾分見直したと云へるかも知れない。受註高累計は前年同期の約75%であつた。然しメーカーは勿論これで満足してはゐなかつた。

然るに1月の最後の週に入つて市場は俄然活況を呈し、註文は相繼いで流入した。即ち先づ最初に半製品の註文が主としてイギリスから入り、次いでマーチャント・バーの需要がアルヂエンチン、エジプト、オランダ、スカンジナビア諸國等から起り、最後にブラジル、ウルグワイ、ポルトガル、英印、滿洲國等から薄板の註文が入手された。又形鋼、フープ、亜鉛鍍板、線材製品等についても取引狀態はよくなつた。

此の取引の復活が、1月23日のドイツ總統の演說以前から既に起こつてゐた事は、次の數字に徴しても明らかであるが、此の事は可成り重要な事實を示唆する。即ち此の需要復活は國際情勢の好轉に起因するものではなくて、むしろ發註を見合はせてゐた消費者が既に手持ちの減少によつて相當窮屈を感じ始めた爲であらうと思はれる。

コジベル受註高

1月1日~17日	44,400t
同日~23日	69,500t
24日~30日	31,000t
計	100,500t

此の表によつても明らかな様、1月の受註高は24日以後は、

それ以前の約 44.6% である。これについては、固よりヒトラー總統の演説が國際收局の前途に樂觀材料を與へた事もその一因を成してゐるには相違ないが然し前述の理由が更に根本的であらうと思はれる。而も此の事は、政局の一進一退に商取引が左右される現在の世界の情勢に對して甚だしい不安を感じてゐる業者にとつては、可成り信頼するに足る材料であるとして大いに歓迎された。

次に 1 月のコジペル受註高の表を掲げる。これはカルテル統制品のみに關するものであつて、再壓延業者の受註は含まれてゐない事は云ふまでもない。

1 月中 コジペル受註高

	國內向け	輸出向け	計
半製品	12,500	19,500	32,000
形鋼	3,600	1,900	5,500
マーチャント・バー	11,000	25,000	36,000
厚板	5,000	9,500	14,500
中板	1,300	1,700	3,000
ユニバーサル平鋼	400	600	1,000
薄板	2,600	5,900	8,500
計	36,400	64,100	100,500

尙上記受註高の内訳については、輸出向け註文が全體の約 65% を占めて居る事に注意すべきである。これは大體ノーマルな状態である。

銑鐵 熔鑄爐數 65 基中操業せるもの 50、銑鐵の 1 日平均生産高は第 3 週に於いて約 8,900t (昨年同期 9,500t) であつた。月初めの頃には、イギリスのクリーヴランド鑄物用 3 號銑の輸出價格引下げが、大陸ものゝ價格に及ぼす影響の結果を充分に見ようとして、買手は註文を手控へてゐた。然し輸出價格は、少くとも鑄物用銑については、其後も大した變化はなかつた。尤もヘマタイト銑の輸出價格は相當下落した。輸出相場の動きは大略次の通りであつた。

	12 月末	1 月第 2 週	第 3 週	第 4 週	第 5 週
鑄物用 3 號銑	67.6~68	66~66.6	66~66.6	66~66.6	67.6~68
鑄物用ヘマタイト銑	830~840	800~810	750~775	700~725	700~725
製鋼用ヘマタイト銑	730~740	700~710	650~675	580~600	575~580

半製品 東歐方面から絶えず幾分の引合があつたが、註文は大抵ドイツに渡つてゐた。市場はむしろ閑散であつたが、其後イギリスからの註文が弗々入りだしたので、先づ大體に於いて、満足すべき商況であつた。國內市場はノーマルな状態であつた。但し再壓延業者は材料手持を殆んど有たず、當用買ひを續けてゐるらしかつた。

マーチャントバー：月初來可成り大きな潜在的需要があるらしく、引合は相當ありながら實際の註文は依然として緩慢であつた。スウェーデンの競争は引渡期限の延長の爲に稍々弱まつたが、フランスのメーカーは非常に積極的に出て居り、公定價格以下でエヂャトに賣込みを行つたらしい。公定價格からの値引は當初可成り、大幅に行はれてゐたが、其後漸次減少したやうである。1 月第 3 週にカルテルは 1 部の市場に對して値下げを行つた。即ち合衆國向けの大西洋諸港渡しのものに就いて、積出港の fob 價格に於いて次記の値下げを行つた。3 吋以下の棒鋼は 36 弗 95 から 29 弗 95 に、3 吋以上の棒鋼は 27 弗 90 に下げ、又鐵筋用丸棒も 28 弗 90 に一定した。又スウェーデン向けマーチャント・バーは fob 4.15.0 から 4.10.0 (金) に下げた。此の値下げ直後スウェーデンは新價格で相當の數量の買付けを行つた。然しアメリカの方は相も變らず註文は斷續的であつた。月末頃にはアルゼンチン、オランダ、スカンジナビ

ア諸國からも新規註文が入つた。再壓延業者の態度も比較的強氣で、値引の程度も概してメーカーよりも少かつた。

三番アイアン・バー：月半ば頃まで取引は益々閑散を加へ、價格も低落を續けた。第 2 週には價格は以前の 7.2.6 から 7.0.0 (紙) fob に下り、第 3 週には更に 6.17.6~6.18.6 に下つた。それ以後は大體同じ水準を保つてゐたが月末頃には取引も稍々規則的になり、價格も 6.18.0~7.0.0 まで恢復した。

形鋼：輸出取引は非常に少く、國內取引の約 33% に過ぎない状態であつた。運賃値下りの爲に、ブラジル及びウルグワイ向けの cif 價格は僅か値下げが行はれた。cif ブエノス・アイレス 9.6.10 (紙) 及び cif モンテヴィデオ 9.2.9.1 (紙) が此の新建値である。値引も相當行はれてゐたらしく、時としては、6 (金) に達したと言はれてゐるが、眞偽の程は明らかではない。然し月末近くなつてから、格別輸出取引が以前より増したといふ譯ではないが、季節的な需要恢復近しといふ見越の爲か、價格は立直りを見せた。fob 價格に就いては殆んど値引は行はれなくなつた。たゞ一部の南アメリカ市場に對する cif 價格は、アメリカの競争に對抗する必要上、なほ可成りの値引が行はれてゐる模様である。

フープ ホット・ロールド・フープについては、市場は稍々閑散の氣味はあつたが、然し概して堅實といふ可きであつた。値段も月初めの 5.0.0~5.7.6 (金) fob から 5.5.0~5.7.6 へ、更に月末には 5.2.6~5.10.0 へと徐々に騰貴の傾向にあつた。コールド・ロールド・フープに就いては、若干のドイツのアウトサイダーがドイツ政府によつてドイツ鋼材聯合會に強制加入させられた事、ベルギーの國內カルテルが確立された事、及び第 4 週に到つてドイツ、フランス、ベルギー及びルクセンブルグを含む國際カルテルが設立された事等の事情から、商況は幾分見直して來た。然しスカンジナビア市場に於ける競争は依然激烈であつた。値段は變らず。

厚、中板：市場は相不變閑散を極め、工場の操業率は確かに 50% を遙かに下るだらうと云はれてゐた。オランダ向け厚板の公定價格はアムステルダム・ロッテルダム渡し 80 フロリンと 5 フロリン方引下げられ、又南西アフリカ向け厚板の公定價格も 2.6 方引下げて 9.5.0 (紙) fob とせられた。其の結果オランダの買付けは幾分恢復を示した。又ハンガリー政府の多額の軍需註文の爲にハンガリーの厚板の競争が緩和され、アメリカの競争も幾分減じた事も好影響を與へた。中板の取引も至極閑散であつた。

薄板：月初めの頃は取引はさして減退したといふでもなかつたが、輸出市場に對するフランスのメーカーの競争が強くなつた爲に、公定價格に對する値引は 10 志 (紙) から 15 志に増した。一方これに對してフランス側の値引は 20~25 志に達した。其の後需要は稍々増加し、フランスの競争は相不變續いてゐたが、輸出向け註文が小口ながら可成り規則的に入手されて來たので、値引も追ひ追ひ減少し、月末頃には 10 志以下に下つた。フランスのメーカーも 10~15 志以上の値引はしなくなつた。さうして一方引渡期限が延長されて來た。英領印度セイロン、ポルトガル、ブラジル等が主な買手であつた。

亜鉛鍍板：此の部門もほゞ、薄板と同じやうな傾向にあつた。即ちフランスの競争が強くと報ぜられてゐた。これに引摺られて一部のベルギーのメーカーも 14.15.0 といふ相場を建てゝゐた。然し其の後需要は漸次恢復して可なり大口の引合も入るやうになつたので、フランスの競争も無くなつた譯ではなかつたが、これに影響される所は

少くなり、値引もベルギー、フランス共に減少し、月末頃はベルギーのメーカーの一部は全然値引を許容しなくなった。

線材製品：月初來中旬頃までは取引は益々閑散を加へ、フランス及びポーランドの競争に對抗する爲に、公定價格に對して約5志の値引が行はれてゐたが、其後漸次需要は恢復し、月末當時はカルテル公定價格は大體守られてゐた。

ブラツセル通信(4月11日發信)昨1938年中の鐵鋼界をベルギー業者の觀察する處によれば、昨年鐵鋼界が世界的に不況裡に終始したるは、カルテル更改期に當り、其更新條件決定迄に交渉はかばかしく進行せざりし爲、業界は氣迷ひ状態を續け、其のうへ下半年期カルテル更改後は生憎國際政情危機の爲商談杜絶し、一方ベルギー輸出市場たる各國は何れも國防その他の目的のため、國內鐵工業を奨勵し、自給自足を目當に何れも生産増大、輸入漸減の傾向あり、昨年度の各國鐵鋼輸出數量は10年以來の最少を示し、歐洲大戰後の最盛期たりし1929年度より正に半減、一昨年度の1/2以下に低下せりと申居候。昨年度ベルギー鋼塊生産高は前年度の漸く58%に達せるのみにて、歐洲大戰前年の1913年度生産高にも及ばず。輸出量を前年度に比しベルギー大藏省の發表する處によれば、ベルギールクセムブルグ經濟同盟昨年度輸出數量は

	1938年	1937年
鋼塊並材料	2,765,746t	4,056,500t

即ち一昨年の4050,000tに對し昨年度は、漸くその68%に過ぎざる2,760,000tを示し居候。

先週の市況は3月下旬に比し好轉一般に人氣良好にて、鋼板、形鋼、銑鐵共 offer 相當に入込めるも、輸出市場には到る處米國並に濠洲の競争あり、値下の止むなき場合多しと申居候。3月中の Cosibel 入註 133,000t 中内地向 61,500t 輸出向 71,500t と發表せられ候。

又工場割當濟のものは 137,000t、其内譯は

半製品	43,000t	形鋼	9,500t
中並厚板	23,000	薄板	9,000
棒鋼並アングル	52,500	以上	

紐育通信(5月30日發信)2月24日通信以後に於ける米國製鋼作業率は次の通りである。

2月27日	55.8%	(昨年同週 29.3%)
3月6日	55.1%	(同 29.9%)
3月13日	55.7%	(同 32.1%)
3月20日	55.4%	(同 33.8%)
3月27日	56.1%	(同 35.7%)

之を昨年同週に比較すると何れも20ポイント内外の躍進である。

因に昨1938年の米國鐵鋼業は近年に於ける一大不況時代であつて、世界鐵鋼生産高に對する國別割合は實に過去45年間以來の最低率である。即ち世界生産高の1/4にも達しなかつたのであるが、其前年たる1937年には尙世界生産高の1/2を占めて居たのであるが、之れを1929年の好況時代世界生産高の半數を占めて居た頃と對比して見る時は實に慘憺たるものであつた。

然して今年の生産狀況は昨年比し、非常な好況を持續しつつあるものであつて今週の作業率56.1%は當に今年の最高であるばかりでなく、1938年12月12日以來の最高率であると共にこの好況は當分繼續するものと一般に觀測されて居る。

然して3月中の鋼塊生産額は大約3,285,000tと豫測され今第一4半期中の合計は9,400,000tを稍々超過すべく、前年の第四4半期の合計9,833,323tに比較すれば、433,323tの減少であるが、昨

1938年同期の總計5,448,896tに比すれば實に3,951,104tの増額振りである。

試に昨年第一4半期、第四4半期及び1939年の第一4半期間に於ける全製鋼生産高を示せば次の通りである。

1938年第一4半期		
1月		1,732,762t
2月		1,703,726
3月		2,012,406
計		5,448,894
1938年第四4半期		
10月		3,117,934t
11月		3,572,220
12月		3,143,169
計		9,833,323
1939年第一4半期		
1月		3,186,834t
2月		2,954,833
3月		3,285,000
計		9,426,667

一方屑鐵市況は國內消費の増加と共に漸次強調を續けつつあるが、今月9日以來滯米中の歐洲屑鐵カーテル代表者の大量買付を見越して屑鐵市場は一段と上放れて居る。

ブラツセル市況(2月中)2月第1週は、國際政局の前途が幾分樂觀されるに伴て、市況も引續き直立りの傾向にあつた。輸出取引は、もとより未だあらゆる部門に互つて満足出来る程には活潑ではなかつたけれども、月初來取引が漸増の傾向にあつた事は確かである。即ち1月中のゴヂペル受註高が總計105,700tであつたのに對して、2月1日~7日の受註高は40,500tであつた。尙昨年は1月の受註高98,500tが2月には51,700tに激減したのに較べれば、今年の取引の恢復は可成り著しいものと云へる。

2月1~7日ゴヂペル受註高		
半製品	21,500t	厚、中板 6,000t
形鋼	2,000	薄板 8,000
マーチャント・バー	8,000	合計 40,500

この表によつても明らかなやうに、受註高の半ば以上は半製品であつて、マーチャント・バーは比較的少量であつた。引渡し期限は1月中は平均4週間であつたものが、約二、三週間に縮まつた。價格は不規則であり、大きな輸出團體によつても5志(金)或ひはそれ以上の値引が行はれてゐると云はれてゐた。さうして此の値引については主として、アメリカの競争に對抗するといふ事が其の理由とされてゐた。

第2週に入つても市場の基調には大した變化は無かつたが、弗々需要の季節的な復活が起こる可き時期であるのに未だ其の兆も見えず、のみならず受註は却て前週に較べて激減した。これは、スペイン内亂の終息は新たな政治的危機を將來はしめないだらうかといふ、一般の疑懼に基づくものであつたらうが、同時に又昨年9月以來の恢復の歩調が既に弛み始めたのに因るものではなからうかとも考へられた。いづれにしろ、前途に對する希望が數週前より可成り弱かつたことは、各部門に互つて値引が増大した事によつても知られる。さうは云ふものゝ根本的にはメーカーは樂觀的であつた。

ゴヂペル受註高		
2月1日~7日		40,500t
8日~13日		21,150
合計		61,650

第3週には取引は稍々恢復した。ゴヂペル受註高は第2週より約

10%増加して 23,250t であつた。これは勿論たいした數量ではないが、とにかく好い傾向ではあつた。試みに 2 月 1 日~20 日のコヂベル受註高を昨年と今年とに就いて比較して見る。

コヂベル受註高

		1938年(2月 1日~20日)	1939年(2月 1日~20日)
半 製 品		8,000t	30,350t
形 鋼		5,000	6,450
棒 鋼		14,000	28,600
厚, 中 板		12,000	13,150
薄 板		4,000	6,250
• 合 計		43,000	84,800

前週以來アメリカの競争は又復激しくなつて來たが、これに加へて更にチエコ・スロヴァキア及びポーランドのメーカーは、其の新しい割當が確定してゐないのに乗じて、出来る限りの注文を取らうとしてゐた。コヂベルの受註の減退はこれに災たれてゐるのか、それとも政情不安に基づく一般の取引氣乗薄が其の原因を成すのかは、俄に斷定し難い事であつた。それは兎に角として、各國が相競つて軍備を擴張してゐる事が、却てヨーロッパの諸國民の平和維持に對する信頼を強めようとする傾向がある。もし此の信頼が一層強くなれば現在の價格の不安定は速かに消滅するだらう。何故ならばヨーロッパの主要鐵鋼生産國の輸出は、37 年に較べて 38 年は約 3000,000 t の減少を來たして居り、從てそれだけに潜在的な需要は相當ある筈だからである。斯やうな見解が依然としてメーカーを支配してゐた。

第 4 週に入ても基調には格別の變化なく市況は大同小異の儘に推移した。2 月 26 日までのコヂベル受註高は次の通りであつた。

		國內市場	輸出市場	合 計
半 製 品		16,300t	18,700t	35,000t
形 鋼		3,600	4,300	7,900
マーチャント・バー		10,000	28,400	38,400
厚 板		5,200	8,800	14,000
中板及びユニバーサル平鋼		2,200	1,600	3,800
薄 板		2,600	5,600	8,200
合 計		39,900	67,400	107,300

買付けの季節的復活は未だ現れず、價格は海外市場に於ける激しい競争に影響されて下押し傾向にあつた。斯様に買手はまだ發註を躊躇してゐる風であつたが、然しそれでも引合の數及び量から見て幾分市況改善の兆候があるやうに觀測された。例へば英帝國內諸市場及びアルゼンチン等から相當の數量の引合あり、又蘭印からは主として鐵筋用丸鋼に對する數千噸の引合があつた。英國からは更に半製品の注文が入り、バルチック諸國の買付けも稍々活潑を加へて來た。

銑 鐵：前月から引續いてヘマタイト銑は相變らず國際的の競争があるらしい氣はひであつた。然し鑄物用 3 號銑の價格は以前の水準を維持して居た。2 月第 1 週の輸出價格は次の通りである。

(fob アントワープ)

鑄物用ヘマタイト銑	700~715 白法
製鋼用ヘマタイト銑	575
鑄物用 3 號 銑	676~68 志

又鑄物用 3 號銑の國內市場向價格は 460~475 法程度であつた。其の後も取引は依然として振はなかつたが、價格は比較的堅く、輸出價格は 2 月中此の水準を維持した。唯國內價格は可成り低落し、第 4 週には鑄物用 3 號銑 455~465 といふ相場であつた。熔鑄爐 64 のうち稼働中のものは第 2 週に 37 であつた。

スクラップ：國內需要は徐々に恢復し、ベルギー國有鐵道は其の賣値の引上げを實現したので、これを反映して自由市場に對する相場は硬化した。第一週のスクラップの相場は次の通りであつた。

熔鑄爐用(上物)	340~360 法
同 (普通品)	280~300
平 爐 用	370~390

さうして市場は引續いて比較的好調を持ち、價格は多少の騰落があつても 2 月中大體變らなかつた。

半製品：半製品は前記の通り受註状態頗る良好であつた。これはイギリスからの注文が多かつたのに因ること勿論であるが、然し又再壓延業者の買付けも可成り活潑であつた。

マーチャント・バー：先頃英帝國領土の各市場向マーチャント・バーの輸出價格の引下げが行はれたが、まだ此の値下げの結果は現れない。主要市場に對する新價格は次の通りである。

ケイタウン	11.0.6 (紙) cif
ダ ー バ ン	11.4.0
シンガポール	11.1.6
カ ラ チ	8.4.7
ボ ン ベ イ	8.4.7
ラ ン グ ー ン	8.6.3

但しカナダ向け價格は 5.5.0 (金) fob 据置であつた。又此の他の自由市場に對して價格は頗る不安定である所から見れば、買手は依然として在庫を補充するのを躊躇してゐるらしい。さういふ事情であつたから、特に棒鋼に關しては、價格の將來に對して大いに疑問が有たれてゐるが、然しカルテル關係者は價格引下げの可能性は全然否定してゐた。自由市場に對するメーカーの値引の程度は正確な所は不明であるが、大體 5 志 (金) 前後らしく、再壓延業者も 4~5 志程度の値引を行つてゐるやうであつた。これに對してポーランドのメーカーは 12 志 6 片(紙)の値引すら許容して居り、且又一部南アメリカ市場に對してはなほこれ以上に値引してゐると云はれてゐた。近東市場に於てはポーランド及びチエコ・スロヴァキアの競争が尙激甚であつた。

三番アイアン・バー：取引は比較的良好であり、輸出價格は第 1 週 6.18.0~7.0.0、大口注文に對しては 6.17.6 (紙) fob であつた。其後も引續き受註多く、引渡し期限は月末には約 6 週に延びた。價格は不變。

形 鋼：季節的な需要の恢復は未だ起こらないが、値引は數週前 2.6~3.0 (金) と報ぜられてゐたのが一時餘程減少してゐたが、其の後再び元に戻た。月末近くなつて値引は益々増加する傾向にあり、ベルギーのメーカーは 2~3 (金) であつたが、フランスのメーカー 3~4 も行つてゐる形跡があつた。然し取引は幾分増加しさうな模様であつた。英印、マレイ、シヤム等から小形物に對する少量の注文があつた。

フープ：市場閑散で、ホット・ロール・フープは月半は頃までは 5.0.0~5.10.0 (金) であつたのが、其の後更に下つて 4.18.0~5.0.0 で商内成立するやうになつた。コールド・ロール・フープの方も同様で、ポルトガル市場に於けるイタリーの競争等の爲、輸出相場は公定價格より 5~7% の値引が行はれてゐた模様である。

厚, 中板：取引は可成り活潑になつて來た。特に造船用鋼板の注文が相當入手された。然し一方アメリカの競争は依然として強く其の對抗上アメリカの競争のある市場に對しては價格は大幅に引下げられ、殆んど棒鋼價格と大差ない程度であつた。然し其の他の市場に對しては、商内好調を反映して價格はよく維持されてゐた。

薄板：2月に入て商内は可成り活潑で、大抵のメーカーは5-6週以下の引渡し期限では引受けなくなつた。一方2月上旬のコローニに於ける薄板及び亜鉛鍍板の國際カルテルの會議に於いては、價格は据置と決定された。此の結果は益々買手を市場に向かせる事となるだらうと觀測されてゐた。フランスの競争も無くはなかつたが一頃よりは十分弱まつた。さういふ次第で値段は比較的堅く、10志(紙)以上の値引は得られず、或る場合には公定價格で取引が成立した。然し其の後需要はやゝ減退を來たし、それと共にフランスの競争もまた強さを加へて來たので、値引も幾分増大した模様である。

亜鉛鍍板：此の部門も大略薄板と同様の傾向で、第1週から第2週にかけて商内は順調で値引は最高5志を超えなかつたが其の後やゝ小開を見せて、値引も5~10(紙)に上つたが、第4週に入つて小口注文の流入多く値引は2.6~5に下た。

線材 市場は閑散で $\frac{3}{16}$ の公定價格5.2.6(金)は相當數量の取引に對しては2.6~3.6の値引が行はれてゐた。然し其の後國際カルテルは南アメリカ及び極東市場に關して、アメリカのメーカーと價格協定を結んだと云はれ、ヨーロッパの取引は恢復した。

鐵鋼工作物築造制限の強化 商工省に於いては鐵鋼の使用制限を一層強化する爲に築造に許可を要する工作物の範圍を擴張す可く、次記の通り告示の改廢を行た。

#### 商工省告示第104號

鐵鋼工作物築造許可規則第1條第1項但書の規定に依り許可を要せざる工作物の種類次の通指定し昭和13年7月商工省告示第187號(本號と同伴)は之を廢止す

本告示は昭和14年5月15日より之を施行す

昭和14年5月8日

次に掲ぐる事業の用に供する製鍊場、機械選鍊場、高さ18m若は軒高13mを超過し又は能力5t以上の天井走行起重機を支持する工場(作業場に限る)鐵塔、索道、起重機、タンク及貯藏庫(銃砲火藥類取締法に依る火藥類、原油、原油の分溜製品若は其の殘渣又は其の分解製品、天然ガスの分離製品にして常温に於て液狀を爲すもの、タール類の分溜油、シエール油又は人造石油の貯藏庫に限る)

- 1, 採鍊業並に金屬製鍊業及製鐵業(製鐵事業法施行令第3條に掲ぐるもの及普通の鋼材製造業にして製鋼又は壓延の設備のみを以て營むものを除く)
- 2, 輕合金の製造業
- 3, 工作機械器具(製材及木工機械を除く)又は同部分品若は同附屬品の製造業
- 4, 兵器又は同部分品若は同附屬品の製造業
- 5, 石油精製業及人造石油(シエール油を含む)又は代用液體燃料の製造業
- 6, 石油輸入業

#### 東西市況

【4月下旬】販賣會社の決定的運籌方針が發表されてをらないので、新會社の機能發動が市場情勢に何う云ふ影響を及ぼすか、それは豫斷の限りではないが、新會社の主義方針は決して市場悪しかれと冀ふものではなく、勿論各方面の利益、立場を充分理解されたものであらうから、由て起る變化は悲觀に墮する要の無いものである事は想像される。

然し其の方面から來る影響が何うであらうとも、時代の流れは利

己的、自由主義的なるを許さず、連れて市場は荆棘の道を明日も亦辿らざるを得ないので、悲觀は排するが、環境を甘く見る事は大いに慎まねばならない。

生産擴充の資材、輸出の原料はそれを需要されるに際し、軍需に次で優先的に認められるので、若し其の割當てが増加するならば、其處に荷動き増大に伴ふ活氣發生を見るが、之れを期待するのは早計で、優先的に認められるとは云へ、果して割當てが増加するか何うか、それは疑問である。

購買力を吸収して悪性インフレを防止する必要から、更に切實に需給の調整を圖り、一層消費統制の擴大、強化を企圖されてゐるので、一般民需、其他の需要に對する割當てが減少し、それとの比較に於て優先的であると云ふに過ぎなくなる可能性が多分に有る。

之れは一例に過ぎないが、此の様な情勢なので市場は未だ總てを消極的に考へてをいた方が無難で、放漫的、我田引水的な觀念、態度を以て臨むべき時には至てをらぬやうである。

〔5月上旬〕

昨年7月1日實施された切符制度は、業界にとつて正しく劃期的の變革であつたが、本月11日呈示された商工省の鋼材配給機構整備案に據つて配給機構が整備せらるゝならば、業界は矢繼早に再び劃期的の變革を見る事となる

整備案の細目、それに據て採られる具體的方法の個々に就いては、既に新聞紙上に於て知悉せらるゝ處なので、之れを擧げて言及する事は省略して、結果の概觀に止めるが、市場に關する限りは、更に統制が強化され、豫て覺悟されてゐたとは云へ、昨年7月以前の所謂市場とは凡そ内容が相違して、或る意味に於ては、誇張して言へば、同名異物となつて茲に改めて轉て今昔の感に堪へぬと云ふ事にならざるを得ぬであらう。

情勢斯くの如くではあるが、市場關係は充分統制策に採まれ、大抵の事には動ぜぬ丈の修養が出来てゐるので、此の大變革期に直面して天職である商内に臨むに當ては徒に動ぜず、現行統制策を體して大體大差無き戰勢を持しつゝ進んでゐる。

#### 日本鑄鋼協議會會員名簿

(昭和14年5月1日現在)(五十音順)

會員名 營業所及工場所在地

#### 【ア】

株式會社 秋木機械製作所 秋田縣山本郡能代港町御指南町 23  
株式會社 吾孺製鋼所 東京市向島區吾孺町東4丁目 62  
旭特殊製鋼所 大阪市西淀川區御幣島町 174  
旭電氣鑄鋼所 大阪市淀川區佃町4丁目 52  
尼崎鑄鋼株式會社 尼崎市杭瀬字後野 35  
合資會社 尼崎電氣鑄鋼所 尼崎市西長洲字井ノ口 5ノ1  
新家工業株式會社 大阪市西淀川區加島町 642  
淺野セメント株式會社香春工場 福岡縣田川郡香春町 812

#### 【イ】

泉尾鑄鋼所 大阪市大正區泉尾濱通3丁目  
磐城炭礦株式會社 東京市麴町區丸ノ内1ノ6ノ1  
工 場 福島縣石城郡内郷村綴  
池田鑄鋼所 東京市蒲田區南六郷3丁目 15ノ4  
いづみ工業所 東京市城東區南砂町2丁目 591  
岩下製鋼株式會社 大阪市西淀川區加島町 925  
株式會社 池貝鑄造所 東京市麴町區有樂町 1ノ11



株式會社 池貝鑄造所工場 埼玉縣川口市元郷町 3/2,220

【ウ】

株式會社 宇部鐵工所 山口縣宇部市大字小串 1,978/19

【エ】

株式會社 榎本鑄造鐵工所 大阪市此花區大開町 3丁目 64

株式會社 花原製作所 東京市麴町區丸ノ内 1  
工場 東京市蒲田區羽田 3丁目 1,341

【オ】

株式會社 太田鐵工所 東京市葛飾區上小松町 296

岡野製鋼所 門司市大里松原

荻野合金工業所 大阪市西淀川區野里町 92

株式會社 大阪機械製作所 大阪市淀川區佃町 1,671

尼崎工場 兵庫縣武庫郡大庄村字中濱

大阪製鋼株式會社 大阪市西淀川區西島町 93/1

大阪製鑄造機株式會社 大阪市此花區四貫島笹原町 1

工場 大阪市此花區春日出町上 5丁目 29

大阪鑄鋼所鈴木工場 川崎市大師河原下殿町 5,830

合資會社 大阪耐酸鑄鋼所 大阪市大正區南恩加島町 100

合資會社 大阪鑄鋼所 大阪市旭區毛馬町 396

株式會社 大阪鐵工所 大阪市此花區櫻島南之町 17

櫻島工場 大阪市此花區櫻島南之町 17

築港工場 大阪市大正區船町 15

大阪電氣鑄鋼株式會社 大阪市北區堂島濱通 1丁目

三國工場 大阪府豐能郡庄内村大字島江 32

大阪特殊鑄鋼所 大阪市東淀川區野中北通 3丁目

大谷製鋼所 尼崎市西向島町 145

株式會社 大阪特殊金屬製鋼所 大阪市旭區放出町 541

大阪重工業株式會社 大阪市西淀川區野里町 377

【カ】

株式會社 金子鑄鋼所 大阪市大正區千島町 387

蒲田鑄鋼所 東京市蒲田區南六郷 2丁目 28/1

株式會社 川崎造船所 神戸市湊東區東川崎町 2丁目 14

製鋼工場 神戸市林田區東尻池

合名會社 關西電氣鑄鋼所 大阪市此花區新家町 1丁目 71

川崎鑄鋼所 川崎市小田町 1丁目 91

株式會社 關東鑄鋼所 埼玉縣川口市本町 1丁目 185

關東製鋼株式會社 東京市麴町區丸ノ内 1丁目 6

澁川工場 群馬縣群馬郡豐秋村大字石原

【キ】

汽車製造株式會社 東京市麴町區丸ノ内 2丁目 2/1

東京支店 東京市城東區南砂町 4/652

大阪支店 大阪市此花區島屋町 406

北濱製鋼所 大阪市西淀川區加島町 826

共立電氣製鋼株式會社 大阪市西淀川區大和田町 1,361

大和田工場 大阪市西淀川區大和田町 1,361

三國工場 大阪府豐能郡庄内村字菰江 38

株式會社 共和製鋼所 大阪市西淀川區御幣島町 174

【ク】

株式會社 久保田鐵工所 大阪市浪速區船出町 2/22

鑄鋼工場 大阪市大正區南恩加島町 1

株式會社 栗本鐵工所 大阪市大正區新炭屋町 7

黒田金床製造所 大阪市浪速區稻荷町 2丁目 927

【ケ】

京濱鑄鋼所 東京市蒲田區南六郷 3丁目 19/4

【コ】

株式會社 神戸製鋼所 神戸市葦合區脇濱町 1/31

合名會社 神戸鑄鐵所 神戸市林田區御藏通 4丁目

合資會社 興國鑄鋼所 大阪市西淀川區加島町 985

株式會社 幸袋工作所 福岡縣嘉穂郡幸袋町大字幸袋 215

國光製鑄鋼業株式會社 大阪市住吉區濱口町 445

小倉製鋼株式會社 小倉市大字許斐町 1

小倉築港株式會社 小倉市大字許斐町 1

小島電氣製鋼株式會社 東京市日本橋區江戸橋 1丁目

蒲田第1工場 東京市蒲田區南六郷町 3/18

同第3工場 東京市蒲田區羽田本町 345

高崎第1工場 高崎市鶴見町 51

同第2工場 高崎市下和田町 450

壽重工業株式會社 大阪市北區會根崎上 2丁目 48

大津工場 大阪府泉北郡大津町

京都七條工場 京都市下京區梅小路日影町 36

株式會社 小松製作所 大阪市北區中之島 3/3

工場 石川縣能美郡小松町字八日市地方 5

小松川製鋼所 東京市京橋區橫町 1丁目 5

工場 東京市江戸川區西一ノ江町 1/370

【サ】

酒井工作所 東京市芝區西芝浦 3丁目 1

株式會社 三和合金製作所 尼崎市杭瀬字三ノ坪 14/1

【シ】

昭和金屬工業株式會社 東京市蒲田區羽田本町 1/1

昭和鑄鋼株式會社 東京市城東區南砂町 5/2,177

昭和肥料株式會社 東京市京橋區寶町 1丁目 7

鹿瀬工場 新潟縣東蒲原郡兩鹿瀬村鹿瀬驛前

昭和重工業株式會社 名古屋市西區島崎町 1

自動車鑄物株式會社 橫濱市鶴見區江ヶ崎町 405

株式會社 芝浦製作所 東京市麴町區有樂町 1/10

鶴見工場 橫濱市鶴見區末廣町 2/4

【ス】

須藤鐵工所 長岡市北中島町

砂町鑄鋼所 東京市城東區北砂町 4丁目 1,314

住友機械製作株式會社 愛媛縣新居濱市乙 31/9

住友金屬工業株式會社 大阪市此花區島屋町 37

製鋼所 大阪市比花區島屋町 349

合資會社 住吉鑄鋼所 大阪市住吉區濱口町 444

【タ】

大同製鋼株式會社 名古屋市港區龍宮町 10

大同工業株式會社 石川縣江沼郡三木村字熊坂 197

大日本産業株式會社 大阪市住吉區濱口町 446

合資會社 平電氣鑄鋼所 平市堂ノ前 4

株式會社 玉造船所 東京市日本橋區室町 2丁目 1/1

工場 岡山縣兒島郡日比町大字玉 10

合資會社 田村鐵工所 秋田縣北秋田郡山瀬村岩瀬字大柳 30

【チ】

株式會社 朝鮮製鋼所 仁川府萬石町 33

【ツ】



鶴見鑄物工場 橫濱市鶴見區末廣町2丁目4  
芝浦製作所構内  
【テ】

株式會社 帝國鑄鋼所 大阪市西淀川區姬島町 1,564  
【ト】

豐國製鋼株式會社 大阪市西淀川區佃町5丁目614  
東京鑄鋼所 東京市江戸川區西一之江1丁目240

合名會社 東京特殊鑄鋼所 東京市荒川區日暮里町8丁目573  
株式會社 土佐電氣製鋼所 高知市孕東町49

特殊鑄物株式會社 大阪府豐能郡庄内村洲到止  
特殊金屬精鍊株式會社 東京市蒲田區今泉町440

合資會社 戶畑製鋼所 東京市麴町區丸ノ内2ノ12  
工場 戶畑市大字戶畑 259ノ5

東邦製鋼株式會社 名古屋市南區豐田町字2ノ割909  
本社工場 名古屋市南區豐田町字2ノ割909

星崎工場 名古屋市南區東星崎町字北割3,608  
東邦鋼業株式會社 東京市足立區沼田川端町2,301

株式會社 東邦製鋼所 大阪市大正區南恩加島町1丁目42  
株式會社 トミタ機械製作所 豐橋市花田町字石塚38ノ5

合名會社 東洋合金製作所 大阪市東淀川區田川通3丁目5  
東洋金屬工業株式會社 大阪市西淀川區野里町638

東洋スチール株式會社 尼崎市西長洲字法師20  
東洋電機製造株式會社 東京市麴町區丸ノ内3丁目4

橫濱工場 橫濱市中區西久保町12  
東洋電氣鑄鋼所 東京市品川區五反田1丁目32

東亞企業株式會社 東京市麴町區丸ノ内2丁目9  
鶴見製鋼所 橫濱市鶴見區矢向町1,515

豐田式織機株式會社 愛知縣西春日井郡新川町字須ヶ口  
【ナ】

直方鑄鋼株式會社 福岡縣直方市大字新入字四斗田323  
株式會社 中山工業所 大阪市東淀川區野中通3丁目18

株式會社 中山製鋼所 大阪市大正區船町3  
株式會社 永瀨鑄物工所 埼玉縣川口市青木町4丁目362

株式會社 名古屋鑄鋼所 名古屋市港區熱田新田東組89ノ割22  
浪速工務所 大阪市北區堂島橫濱通2丁目6

電氣鑄鋼部工場 大阪市旭區森小路南1ノ486  
成瀨鑄鋼所 大阪市住吉區濱口町443ノ2

株式會社 永田製作所 福岡縣若松市濱八番町3丁目137  
【ニ】

株式會社 新潟鐵工所 東京市麴町區丸ノ内3丁目4  
新潟工場 新潟市入舟町4ノ3,776

合資會社 日滿電氣製鋼所 大阪市北區北錦町53  
日本鋼鑽株式會社 大阪市北區玉江町1ノ4

川尻工場 廣島縣加茂郡川尻町  
株式會社 日本合成金屬製鋼所 大阪市東淀川區三津屋北通4丁目53

日本曹達株式會社 東京市麴町區大手町2丁目8ノ7  
大島製鋼所 東京市城東區大島町4ノ13

米子製鋼所 鳥取縣米子市久米町182  
日本火工株式會社 東京市京橋區寶町1丁目7

川崎工場 川崎市大師河原字小島新田  
日本金屬工業株式會社 東京市京橋區銀座西6丁目2ノ5

橫濱工場 橫濱市中區西久保町14  
川崎工場 川崎市大師河原上殿町4,861

株式會社 日本製鋼所 東京市麴町區丸ノ内1丁目2ノ1  
室蘭製作所 室蘭市茶津町4

廣島製作所 廣島市仁保町延命1,630  
日本エム株式會社 旭製鋼所 久留米市洗町1

日本鑄鋼株式會社 東京市城東區大島町7丁目5  
日本鑄造株式會社 東京市麴町區丸ノ内1丁目6ノ1

鶴見工場 橫濱市鶴見區末廣町2ノ2  
川崎工場 川崎市白石町2ノ1

日本車輛製造株式會社 名古屋市熱田區熱田東町字梅ノ木33  
株式會社 日本鑄鋼所 大阪市大正區千島町383

日本鐵工製罐株式會社 大阪市大井區新千歲町14  
合資會社 日本電氣製鋼所 大阪市西淀川區大仁本町3丁目54

【ハ】  
函館船渠株式會社 函館市辨天町88

株式會社 橋本鐵工所 東京市麴町區丸ノ内3ノ2  
工場 東京市蒲田區翁田本町575

株式會社 長谷川鑄鋼所 東京市城東區南砂町6丁目578  
工場 東京市城東區南砂町6丁目578

株式會社 播磨造船所 兵庫縣赤穂郡相生町相生5,292  
阪神電氣製鋼株式會社 兵庫縣西宮市今津真砂町

株式會社 阪神電氣鑄鋼所 大阪市西淀川區佃町534  
服部製鋼所 名古屋市熱田區東町内濱96

發動機製造株式會社 大阪市西淀川區大仁東2丁目3  
【ヒ】

株式會社 日立製作所 東京市麴町丸ノ内2丁目3  
日立工場 茨城縣多賀郡助川町大字助川1,405

龜有工場 東京市足立區大谷町927  
笠戸工場 山口縣都濃郡下松町大字東豐井794

戶畑工場 福岡縣戶畑市明治町3丁目  
弘中商工株式會社 京城市漢江通3

【フ】  
合名會社 深見商店鑄造所 福岡市上土居町9

株式會社 福島製作所 福島市六反田1  
工場 福島縣伊達郡長岡村千供田27

株式會社 富國電氣鑄鋼所 大阪市西淀川區佃町365ノ6  
二葉鑄鋼合資會社 川崎市下並木87

藤川工業合名會社 廣島市大洲町  
株式會社 藤永田造船所 大阪市住吉區柴谷町44

【ホ】  
北海鑄鋼株式會社 札幌市北三條東4丁目5

鑄鋼工場 札幌市北三條東4丁目5  
株式會社 北鮮製鋼所 朝鮮咸鏡南道文川郡川間里42

株式會社 保坂製鋼所 大阪市西淀川區佃町1,195  
本社工場 大阪市西淀川區佃町1,195

加島工場 大阪市西淀川區加島町  
株式會社 星野鐵工場 福島縣若松市日吉474

【マ】  
合名會社 前川電氣鑄鋼所 大阪市旭區放出町1,112

大阪工場 旭區放出町1,112  
戶畑工場 戶畑市大字戶畑字沖臺2,768

松尾鑄鋼株式會社 大阪市東區大川町23  
株式會社 松岡製作所 大阪府布施市高井田675

【ミ】

合名會社 三木鑄鋼所 大阪市港區築紫町2丁目5  
 工 場 大阪府南河內郡道明寺大字道明寺59  
 三元高壓工業株式會社 大阪市西區新町南通4丁目  
 三井鑛山株式會社三池製作所 大牟田市旭町2丁目28  
 三菱重工業株式會社 東京市麴町區丸ノ内2丁目4  
 神戶造船所 神戶市兵庫區和田崎町  
 橫濱船渠 橫濱市中區綠町3ノ4  
 長崎製鋼所 長崎市茂里町91

【ム】

株式會社 牟田鑄工所 東京市品川區五反田1丁目425  
 蒲田工場 東京市蒲田區糞谷町4ノ1,601  
 株式會社 武藤電氣製鋼所 大阪市大正區小林町222

【モ】

株式會社 本江機械製作所 富山市下奥井1

【ヤ】

柳井特殊鑄鋼所 東京市江戸川區本一色町135

合資會社 山田鑄鋼所 東京市城東區龜戶町9丁目69  
 株式會社 大和製作所 大阪府南河內郡道明寺村字國府118  
 大和特殊鑄鋼株式會社 東京市大森區大森9丁目389  
 合資會社 山中製鐵所 船橋市西海神1,896  
 八幡特殊鋼鐵株式會社 八幡市大字槻田758  
 山根製鋼所 尼市長洲三反長4  
 山本重治郎商店 三重縣桑名市桑名

【ヨ】

株式會社 橫山工業所 東京市麴町區內幸町2ノ2  
 第二工場 東京市城東區大島町8ノ368

【リ】

理研電磁器株式會社 東京市麴町區有樂町1丁目2ノ1  
 工場 高崎市江木町

【ワ】

株式會社 ワシノ電氣製鋼所 愛知縣碧海郡安城町大字今字東榎家5  
 株式會社 渡邊製鋼所 東京市蒲田區糞谷町5丁目1,347  
 渡邊鑄鋼所 名古屋市中川區富船町3丁目1

東京大阪市中鐵鋼相場表

下旬 (東京大阪) 4月28日				上旬 (東京大阪) 5月8日					
上旬		中旬		上旬		中旬			
東京	大阪	東京	大阪	東京	大阪	東京	大阪		
<b>溝形鋼</b>									
6mm	29.00	22.00	29.00	伸28.10	5×50×100	22.60	22.60	22.60	22.60
9	22.10~24.20	伸23.60	22.10~24.20	22.30	6×65×125	21.50	21.50	21.50	21.50
12	21.00~24.10	伸23.60	21.00~24.10	21.30	6.5×75×150	伸	伸	伸	伸
19	18.90	18.90	18.90	伸鋼25.50	7.5×80×200	伸	伸	伸	伸
25	伸	伸	伸	伸	9×90×250	伸	伸	伸	伸
50	21.50	伸27.30	21.50	伸27.60	10×90×300	伸	伸	伸	伸
65	伸	伸	伸	伸	<b>工形鋼</b>				
130	26.20	伸	26.20	伸	5.5×75×150	21.50	21.50	21.50	21.50
150	伸	伸	伸	伸	7×100×200	伸	伸	伸	伸
200	28.40	伸	28.40	伸	10×125×250	伸	伸	伸	伸
<b>角鋼</b>									
9mm	26.20	伸26.25	26.20	伸26.50	8×150×300	伸	伸	伸	伸
12	28.00	伸26.80	28.00	伸27.10	12×150×350	伸	伸	伸	伸
16	20.40~27.00	伸20.45	20.40~27.00	伸20.70	<b>鋼板</b>				
19	伸	伸	伸	伸26.00	1.6×3'×6'	26.20	26.25	26.20	26.55
38	21.50~28.00	伸26.80	21.50~28.00	伸27.10	1.6×4×8	27.30	27.30	27.30	27.60
50	22.60~28.00	伸	22.60~28.00	伸	1.6×5×10	伸	伸	伸	伸
65	22.60~29.00	伸	22.60~29.00	伸	2.3×3×6	25.70	25.70	25.70	26.00
100	24.70	伸	24.70	伸	2.3×4×8	26.80	26.80	26.80	27.10
<b>平鋼</b>									
3×25	26.20	伸26.25	26.20	伸26.50	2.3×5×10	27.80	27.80	27.80	28.10
9×19	20.40	伸	20.40	伸	3.2×3×6	25.20	25.20	25.20	25.50
6×25	伸	伸	伸	伸	3.2×4×8	26.20	26.25	26.20	26.55
6×38	伸	伸	伸	伸	3.2×5×10	27.30	27.30	27.30	27.60
6×50	伸	伸	伸	伸	4.5×3×6	24.10	24.10	24.10	24.40
6×75	27.60	伸21.50	27.60	伸25.80	4.5×4×8	25.20	25.20	25.20	25.50
9×100	伸	伸25.50	伸	伸	4.5×5×10	26.20	26.25	26.20	26.55
12×100	伸	伸	伸	伸	6.0×4×8	22.60	22.60	22.60	22.90
<b>等邊山形鋼</b>									
3×20×20	31.50	伸30.50	31.50	伸30.50	6.0×5×10	伸	伸	伸	伸
3×25×25	30.00	伸28.40	30.00	伸28.40	9.0×4×8	22.00	22.00	22.00	22.30
5×40×40	19.90	伸19.91	19.90	伸19.90	9.0×5×10	伸	伸	伸	伸
6×45×45	伸	伸	伸	伸	12×4×8	伸	伸	伸	伸
6×50×50	20.40	伸20.45	20.40	伸20.45	<b>薄鋼板 (13枚)</b>				
6×65×65	19.40	伸19.40	19.40	伸19.40	川崎	1.03	1.03	1.03	1.04
9×75×75	伸	伸	伸	伸	八幡	伸	伸	伸	伸
9×130×130	20.40	伸20.40	20.40	伸20.45	<b>ブリキ</b>				
12×130×130	伸	伸	伸	伸	米	170lbs	伸	伸	伸
15×150×150	伸	伸	伸	伸	200	伸	伸	伸	伸
<b>不等邊山形鋼</b>									
9×50×75	20.40	伸20.45	20.40	伸20.45	英	170	伸	伸	伸
10×75×100	伸	伸	伸	伸	200	伸	伸	伸	伸
10×90×125	伸	伸	伸	伸	八幡	170	38.00	38.00	38.50
9×100×150	21.00	伸21.00	21.00	伸21.00	200	伸	39.50	39.50	40.00
12×100×150	伸	伸	伸	伸	W.W	200	伸	伸	伸
<b>線材</b>									
		B. W. G. #5		190.00	193.00	190.00	193.00		

備考 單位 100kg につき (置場値段), 但し薄板は1枚當り, 線材はt當り, ブリキは1函當り.

昭和14年4月中發表各種鋼材建値表

(其の1)

所屬別	品 種 別	建 値 日	建 値 (t當圓)	定 尺 (呎)	エキストラ (圓)	備 考		
鋼 共 販	丸鋼	ベース(19mm~32mm)	4-24	175	12, 15, 16, 18, 20, 22, 24	ベース	6, 7月積, 据置 長さのエキストラ 34呎迄の不定尺 5圓増 34呎超 45呎迄 6圓増 45呎超 50呎迄 8圓増 50呎超 別途協議の事 2級品の格差 小形丸鋼 3圓落以内 中形丸鋼 10圓落以内 小形角鋼 3圓落以内 中形角鋼 10圓落以内 小形平鋼 10圓落以内 中形平鋼 10圓落以内 中間サイズは別途協議の事 規 格 料 (日本標準規格に據る)	
		5.5mm, 6, 8, 9	"	205	12	+30		
		12(總數量の25%以内)	"	195	12, 15, 16, 18, 20, 22, 24	+20		
		16	"	180	"	+5		
		36~48	"	185	"	+10		
		50~85	"	200	12, 15, 18	+25		
		90, 95	"	210	"	+35		
		100	"	230	"	+55		
		100超~150	"	245	"	+70		
		150超~200	"	265	"	+90		
	角鋼	16mm~32mm	"	190	"	+15	鐵道車輛用 { S. R. 34 50 S. R. 39 20 壓延鋼材 { S. R. 44 60 S. R. 50 80 構 造 用 { S. S. R. 34 50 S. S. 39 20 壓延鋼材 { S. S. C. 39 20 造 船 用 { S. M. R. 39 20 S. M. R. 41 50 壓延鋼材 { S. B. R. 34 90 S. B. R. 41 60 罐 用 { S. B. 41 90 S. B. 44 100	
		36~48	"	200	"	+25		
		50~80	"	210	"	+35		
		90~100	"	230	"	+55		
		100超~150	"	245	"	+70		
		65mm以下	"	190	"	+15		
	平鋼	65mm以下	"	190	"	+15		
		65超~150	"	200	"	+25		
	形 鋼 共 販	小形等邊山形鋼	A 3mm×20mm×20mm	4-24	210	12, 15, 18, 20	+25	6, 7月積, 据置 長さ又は切揃のエキストラ 25呎超 40呎未満 { 大形 10圓 中形 5圓 40呎超 60呎以下 { 大形 15圓 中形 10圓 50 呎 超 { 大形 20圓 中形 15圓 25 呎 未 満 { 大形 15圓 中形 10圓 2級品の格差 小中大形形 3圓落 規 格 料 (日本標準規格に據る)
			B { 3×25×25 3×30×30 3×40×40	"	200	"	+15	
C { 5×30×30 5×40×40 4×45×45 6×40×40 6×45×45			"	185 185 185 185 185	"	ベース		
A { 3×40×20 5×40×20			"	210 210	"	+25		
B { 4×50×35 6×50×35			"	195 195	"	+10		
等邊(50mm以上 100mm以下)			"	180	"	ベース		
4×50×50			"	195	"	+15		
6×50×50			"	190	25, 30, 33, 36, 40	+10		
8×50×50			"	190	"	+10		
不等邊(邊の和100mm以上 200mm以下但し 125×90を含む)			"	190	"	+10		
大形山形鋼		等邊(邊 100 超)	"	190	"	ベース		
		200×200	"	198	"	+8		
大形工形鋼		不等邊(邊の和 200mm 超但し 125×90)を除く	"	195	"	+5		
		100mm×75mm以上	"	200	"	ベース		
		400×150	"	202	"	+2		
		450×175	"	203	"	+3		
		20'×7½"	"	203	"	+3		
		24×7½	"	206	"	+6		
大形溝形鋼		125mm×65mm以上 (高100mm超)	"	200	"	ベース		
		中形溝形鋼 { 75mm×40mm { 50mm以上100mm以下 { 100×50	"	210 210	"	+10 +10		

昭和 14 年 4 月中 發表 各種 鋼材 建 値 表

(其の 2)

所屬別	品 種 別	建 値 月 日	建 値		エ キ ストラ	備 考		
			シーヤ及 間屋向	實需向				
鋼 板 共 販	耳 付	小形 { 6mm超 12mm以下 (12mm×5' ×20'以下) } 大形 { 12mm超 25mm未滿 (12mm×5' ×20'超) }	4-24	175		ベース	5, 6 月積, 据置 其の他エキストラ 6mm厚のものに付幅5呎超 20圓 幅 { 7呎~7呎6吋迄 15 7呎6吋超~8呎迄 20 8呎超~9呎迄 25 9呎超~10呎迄 30 10呎超 40 厚 { 25mm~35mm迄 10圓 35超~40迄 20 40超~45迄 30 45超~50迄 40 長さ 30呎超 10圓 規 格 料 (日本標準規格に據る) S. S. 39 20 圓 S. R. 34 80 B. R. 39 20 S. R. 44 30 S. M. 41 30 S. M. 44 30 S. B. 34 90 S. B. 39 80 S. B. 41 80 S. B. 44 80	
			"	180		+ 5		
	"	185		+10				
	"	185		+10				
	"	190		+15				
	"	205	215	ベース				
	"	210	220	+ 5				
	"	210	220	+ 5				
	"	225	235	+20				
	"	235	245	+30				
	"	245	255	+40				
	"	235	245	+30				
	"	245	255	+40				
	"	255	265	+50				
	"		220	ベース				
	"		225	+ 5				
	"		230	+10				
	"		235	+15				
	薄 板 共 販	31番 3呎×6呎 (13枚入) 30 3×6 (12枚入) 29 3×6 (11枚入) 28 3×6 (10枚入) 27 3×6 (9枚入) 26 3×6 (8枚入) 25 3×6 (7枚入) 24 3×6 (6枚入) 22 3×6 (5枚入) 20 3×6 (4枚入) 18 3×6 (3枚入) 16mm 2mm { 3呎×6呎 4×8 5×10 23mm { 3×6 4×8 5×10	4-13	260				6 月積, 据置 其の他エキストラ (1) 30吋×5呎 3 圓 30×7 7 30×8 8 30×9 18 3呎×7呎 5 3×8 10 (2) 其の他の特殊寸法はエキストラ ラ 20 圓以内とし其の都度協 定の事 (3) 規定外寸法は近似寸法の高き 方の値段による事
			"	260				
"			258					
"			258					
"			256					
"			256					
"			254					
"			254					
"			252					
"			252					
"			250					
"			240		ベース			
"			255		+10			
"			265		+20			
"			240		ベース			
"			250		+10			
"			260		+20			
鉄 力 板 共 販			170 封 度 (20吋×28吋×112枚入) 1 函 200 封 度 (20吋×28吋×112枚入) 1 函 石 油 罐 用 胴 板 110 封 度 (14吋×18¼×124枚入) 石 油 罐 用 天 地 板 156 封 度 (10吋×20吋×225枚入)	4-14	3600			
	"	3750						
	"	2150						
	"	3000						

昭和 14 年 4 月中發表各種鋼材建値表

(其の 3)

所屬別	品 種 別	區 分	建 値 日	建 値	備 考
半 製 品、 棒 鋼 共 販 第 二 部	半 製 品	半 硬 鋼	4-12		6, 7 月積, 据置 1. 鋼 塊 單重 500kg 以上, 2,000kg 未滿 最高 20 圓 2,000kg 以上, 3,000kg 迄 " 35 3,000kg を超ゆるものは別途協議の事 チップング費用は別途申受けの事 2. 鋼 片 邊又は徑 75mm 未滿のもの及 180mm を超ゆるものに付ては別途協議の事
		硬 鋼	"	175(20圓下げ)	
		最 硬 鋼	"	183(22圓下げ)	
	鋼 塊	最 硬 鋼	"	191(24圓下げ)	
		半 硬 鋼	"	199(11圓下げ)	
		硬 鋼	"	208(12圓下げ)	
	鋼 片	最 硬 鋼	"	217(13圓下げ)	
		半 硬 鋼	"		
		硬 鋼	"		
	棒 鋼	半 硬 鋼	4-12	225(20圓下げ)	徑のエキストラ 丸 鋼 5.5mm~6mm 50 圓 8, 9 40 11~13, 50 以上 100 迄 25 100 超 150 迄 70 150 超 200 迄 90 角鋼は全部丸鋼の 15 圓増 六角鋼のエキストラ 12mm~17mm 100 圓 17mm超~28mm 80 29~58 50
		硬 鋼	"	235(19圓下げ)	橢圓鋼のエキストラ 30 圓 平鋼のエキストラ 厚 幅 5/8" x 3/8 又は 1/2" 150 圓 1/2" x 3/8 又は 3/4 又は 1. 140 3/8" x 1 1/4 - 6 130 3/8 x 1 1/4 - 6 70 1/4 x 3/4 - 4 30 1/4 x 4 1/2 - 6 50 3/8 - 1 1/4 x 3/8 - 4 30 5/8 - 1 1/4 x 4 1/2 以上 50 1 1/2 x 2 - 4 30 1 1/2 x 4 1/2 以上 50 1 1/2 超 x 3 以上 30
		最 硬 鋼	"	245(18圓下げ)	
	鍛 造 丸 鋼 及 角 鋼	半軟鋼 { 100mm ~150mm	4-12	440	6, 7 月積, 据置 平鋼は各鋼質共丸, 角鋼値段の 1 割増の事 長さの標準は丸角單長 3m~4m, 平 (幅 150mm 以下) 2m~4m, 其他は別に協定の事
		半硬鋼 { 150mm超~200mm	"	500	
		200mm ~300mm	"	535	
	最 硬 鋼	100mm ~150mm	"	455	
		150mm超~200mm	"	535	
		200mm超~300mm	"	550	
	普通線材	5.5mm	4-13	185	4, 5 月積, 据置 特殊線材太番のエキストラは t 當 10 圓とす
		太番(7mm~13mm)	"	215	
		炭 素 用 鋼	"	245	
	低 炭 素 用 鋼	硬 鋼	"	230	
		鋼 A	"	240	
		鋼 B	"	260	
	電 信 線 用 鋼	鋼	"	250	
		鋼	"	230	
		鋼	"	220	
	電 信 線 用 鋼	鋼	"	240	
		鋼	"	240	

上記壓延棒鋼及半製品建値實施方法.

- (1) 市販品に對しては
  - (イ) 4 月 12 日以後賣出のものより上記建値による.
  - (ロ) 既約定品中本年 5 月末日迄に積出すものは既契約値段による. 6 月 1 日以降に積出すものは上記建値による.
  - (ハ) 6 月末日迄の間屋の販賣値段は舊建値を基準として 7 月 1 日より全面的に上記建値を基準として販賣するものとす.
- (2) 實需向に對しては
  - (イ) 本日以降引受けのものより上記建値による.
  - (ロ) 既契約は其儘とす.

昭和14年4月中発表各種鋼材建値表

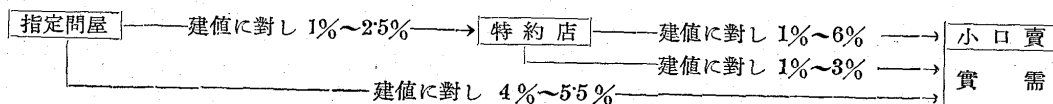
(其の4)

所屬別	品 種 別	區 分	建 値 月 日	建 値	備 考			
帯 鋼 共 販	厚 0.9~1mm	幅 19~24mm	4-14	285	5月積, 据置 但幅171mm以上幅170mmをベースとして1tに付15圓増のこと  エキストラ (1) 中間サイズは5圓増のこと (2) 厚さ3mm超は5圓増のこと			
			〃	275				
			〃	260				
			〃	270				
		幅 25~35	〃	280				
			〃	265				
			〃	255				
			〃	250				
		幅 36~85	〃	255				
			〃	260				
			〃	270				
			〃	255				
	幅 86~105	〃	255					
		〃	250					
		〃	245					
		〃	250					
	厚 1.1~1.3mm	幅 19~24	〃	255				
			〃	250				
			〃	245				
			〃	250				
		幅 25~35	〃	255				
			〃	250				
			〃	245				
			〃	250				
幅 36~49		〃	255					
		〃	250					
		〃	245					
		〃	250					
幅 50~121	〃	255						
	〃	250						
	〃	245						
	〃	250						
厚 1.4~2mm	幅 19~24	〃	255					
		〃	250					
		〃	245					
		〃	250					
	幅 25~35	〃	255					
		〃	250					
		〃	245					
		〃	250					
	幅 36~49	〃	255					
		〃	250					
		〃	245					
		〃	250					
幅 50~121	〃	255						
	〃	250						
	〃	245						
	〃	250						
厚 2.1~2.5mm	幅 19~24	〃	255					
		〃	250					
		〃	245					
		〃	250					
	幅 25~35	〃	255					
		〃	250					
		〃	245					
		〃	250					
	幅 36~49	〃	255					
		〃	250					
		〃	245					
		〃	250					
幅 50~121	〃	255						
	〃	250						
	〃	245						
	〃	250						
厚 2.6~3mm	幅 19~24	〃	255					
		〃	250					
		〃	245					
		〃	250					
	幅 25~35	〃	255					
		〃	250					
		〃	245					
		〃	250					
	幅 36~49	〃	255					
		〃	250					
		〃	245					
		〃	250					
幅 50~121	〃	255						
	〃	250						
	〃	245						
	〃	250						
日 本 製 鐵	美裝鋼板	{ 1.6mm } # 18	白鳩印	4-19	問屋向 263 278	實需向 276 292	5,6月積, 据置	
	縞鋼板				255 (標準) 値段)		全部實需向なり	
	珪素鋼板	B C D T T S	級 級 級 級 級	4-20	310			据置
				〃	340			〃
				〃	375			〃
				〃	455			〃
〃				500			〃	
スロップ用鋼板	{ 1.8mm×3'×6' 1.85×3×6		4-20	問屋向 300	實需向 310	4'×8'のエキストラは10圓一般硬板と同値とす		
重軌	軌	條 (繼目板共)	4-27	210		据置		
			4-1	210		〃		
鋼	矢板		12-5-25	205		指定河岸渡り當り値段なり		

註 上掲の諸共販組合建値に對する指定問屋及特約店の口錢並びに建値の實施方法は下の如くである。

(I) 棒鋼, 形鋼, 鋼板共同販賣組合の指定問屋及特約店の口錢に關する取極は下記の通り。

(1) 指定問屋及特約店の口錢。



(2) 本口錢は總て共販建値を基準として徴するものである。

(3) 小口賣と云ふは大體に於て1日1t以内契約のものを云ふ。

(4) 當分の間指定問屋は所定口錢の外臨時口錢として1t金4圓以内を加算し販賣することを得。

(5) 特約店は指定問屋が所定口錢及び臨時口錢を加算したる値段に特約店の所定口錢と更に臨時口錢として1t金4圓以内を加算し販賣することを得。

(6) 以上指定問屋及特約店の賣値は自家店舗又は置場渡りの値段で, 其以後の配給に要する運賃は實費のみを請求し得。

(II) 半製品第2部棒鋼(第2部を含む)形鋼及び鋼板の新建値實施方法は下記の通り。

(1) 市販品に對しては

(イ) 12月賣出のものより新建値に據る。

(ロ) 11月末日迄の賣出品中14年1月31日迄に積出すものは既契約値段により2月1日以降に積出すものは新建値に據る。

(ハ) 14年2月末日迄の販賣値段は舊建値を基準とし3月1日より全面的に新建値を基準として販賣するものとす。

(2) 實需向に對しては棒鋼形鋼鋼板14年1月引受のものより新建値に據り既契約は其儘とす。